

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会

議事概要

- 日 時 平成29年4月13日（木）10:00～10:04
- 場 所 中央合同庁舎第8号館 6階623会議室
- 出席者 久間議員、原山議員、上山議員、内山田議員、
橋本議員、小谷議員、十倉議員
山脇政策統括官、進藤大臣官房審議官、松本大臣官房審議官、
生川大臣官房審議官、柳大臣官房審議官、
佐藤参事官、板倉企画官

〔議事概要〕

○原山議員

ただいまより総合科学技術・イノベーション会議有識者議員懇談会を始めます。

本日、鶴保大臣、石原副大臣、豊田政務官が御欠席ということで、懇談会として開催させていただきます。

議題 国家的に重要な研究開発の評価について

本日の議題は一つでございます。国家的に重要な研究開発の評価について、まずは事務局の板倉企画官からお願いいたします。

○板倉企画官 それでは、配付資料「評－1」の1枚目を御覧下さい。今回、評価しましたのは「アルマ計画」であり、機関としては文部科学省が実施しているものです。

実施期間としては、平成16年度から10年間、予算としては建設費、約251億円です。また、運用経費が年約30億円の予算となっております。

計画の概要としては、南米チリ・アタカマ高地に66台のアンテナから構成される巨大な電波望遠鏡システムを日米欧の国際協力により建設するというものです。

また、この66台で直径16kmに相当する望遠鏡の性能、これはこれまでの電波望遠鏡の

100倍の性能になったものを建設するというものです。

評価専門調査委員会で取りまとめた事後評価結果として、総合評価では、アンテナやサブミリ波受信技術などの我が国の高い技術力の結集により、世界最高水準の電波天文学の研究基盤構築に大きく貢献し、また、それに対して我が国の存在感を示したものと評価できるとしています。また、その研究基盤を活用して、人類の重要なテーマに迫る成果も続々と出てきているということの評価しております。

他方、主な指摘事項としましては、これから我が国として世界の天文学をリードするための戦略を持った研究を推進すべきであるとしています。

また、国際的に高く評価される研究者の輩出につながる継続的な人材育成の検討や実施、開発した技術の産業応用を含む多用途での利活用というものを指摘事項として挙げております。

資料の説明は以上です。

○原山議員 ありがとうございます。

次回の本会議で決定するものでございます。

御質問、御意見がございましたら、承ります。いかがでしょうか。

○久間議員 資料が分かりやすく書かれているので、特に補足説明はありませんが、1ページ右上に南米チリ、アタカマ高地の写真がありますね。写真の中の白いもの一つ一つが電波望遠鏡であり、サイズが7メートルのものと12メートルのものが全部で66台あります。この66台が協調して、望遠鏡として働く訳です。これと同じ性能の電波望遠鏡を1台でつくろうとすると、右上に、富士山の上に巨大なアンテナがのった図がありますが、このぐらい巨大なアンテナをつくらないと同じ性能は得られません。すばらしい国際プロジェクトだと思います。

○原山議員 よろしいでしょうか。本日の議題は一つですので、これで終了いたします。ありがとうございました。

以上